



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2021年  
No.10  
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

## 患者の生活状況



### 事例

#### 【事例の詳細】

50歳代の女性にラツーダ錠20mgが初めて処方された。処方箋には1日1回1錠朝食後と記載されていたが、患者から朝食はあまり食べないことを聴取した。ラツーダ錠の吸収は食事の影響を受けやすいため食後に服用することになっている。そこで処方医に患者の朝食の摂取状況を伝えたところ、用法が夕食後に変更になった。

#### 【推定される要因】

処方医は患者の食生活を考慮しなかったと推察する。

#### 【薬局での取り組み】

朝食を取らない習慣の患者もいるため、ラツーダ錠が処方された患者には食生活について注意深くヒアリングを実施する。



### その他の情報

ラツーダ錠20mg／40mg／60mg／80mgの添付文書（一部抜粋）

#### 6. 用法及び用量

〈統合失調症〉

通常、成人にはララシドン塩酸塩として40mgを1日1回食後経口投与する。

〈双極性障害におけるうつ症状の改善〉

通常、成人にはララシドン塩酸塩として20～60mgを1日1回食後経口投与する。

#### 14. 適用上の注意

##### 14.1 薬剤交付時の注意

14.1.1 本剤の吸収は食事の影響を受けやすいので、食後に服用するよう指導すること。

##### 16. 薬物動態

##### 16.2 吸収

##### 16.2.2 食事の影響

血清中ララシドンの $C_{max}$ 、 $AUC_{0-48}$ 及び $AUC_{0-\infty}$ は、空腹時投与に比べて食後投与では2.4倍、1.7倍及び1.7倍に増加した。



### 事例のポイント

- ラツーダ錠の吸収は食事の影響を受け、空腹時投与では血清中ララシドンの $C_{max}$ 、 $AUC_{0-48}$ 及び $AUC_{0-\infty}$ が食後投与に比べて減少することから、食後の服用を厳守する必要がある。本事業には、ラツーダ錠が就寝前や食前に処方されたため薬剤師が疑義照会を行った結果、食後に変更になった事例が複数報告されている。ラツーダ錠が処方された際は、用法が食後になっているかを確認することが重要である。
- 食事の影響を受ける薬剤の一覧表を作成し、患者の生活状況を聴取する際や調製・鑑査を行う際に活用するとよい。
- 本事例ではラツーダ錠が朝食後に処方されており用法に間違いはなかったが、患者の生活状況を考慮した処方設計ではなかった。処方通りに服用した場合、有効な血中濃度を維持できなかった可能性がある。
- 薬剤師が、薬剤を服用する患者の生活状況を丁寧に聴取して把握し、その情報により有効な薬物療法につなげることができた良い事例である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。